

# 平成 23 年度 伊丹市 2 分の 1 成人式 家庭教育講演会 発表児童

【発表順】

## 第 I 部

| 順 番 | 学 校 名    | 氏 名                |
|-----|----------|--------------------|
| 1   | 伊丹小学校    | ふじもと かなな<br>藤 本 葉名 |
| 2   | 稲野小学校    | よしむら はるか<br>吉 村 悠  |
| 3   | 南 小学校    | きた はづき<br>北 葉月     |
| 4   | 神津小学校    | たかはた しおん<br>高 畑 詩音 |
| 5   | 緑丘小学校    | ほそかわ かえで<br>細 川 楓  |
| 6   | 伊丹特別支援学校 | なんば ちか<br>難波 千佳    |

## 第 II 部

| 順 番 | 学 校 名  | 氏 名                |
|-----|--------|--------------------|
| 7   | 桜台小学校  | たなか りな<br>田 中 里奈   |
| 8   | 天神川小学校 | きたなか めい<br>北 仲 愛依  |
| 9   | 笹原小学校  | おかだ たいよう<br>岡 田 太陽 |
| 10  | 瑞穂小学校  | いしかわ みゆ<br>石 川 実夢  |
| 11  | 有岡小学校  | おのむら みゆう<br>斧 村 美優 |
| 12  | 花里小学校  | にしやま あみ<br>西 山 亜海  |

## 第 III 部

| 順 番 | 学 校 名  | 氏 名                 |
|-----|--------|---------------------|
| 13  | 昆陽里小学校 | いなおか とわ<br>稲 岡 叶羽   |
| 14  | 撰陽小学校  | かわの かいと<br>川 野 凱史   |
| 15  | 鈴原小学校  | てらぼる たいよう<br>寺 原 太陽 |
| 16  | 荻野小学校  | きむら ひより<br>木 村 日和   |
| 17  | 池尻小学校  | べつぷ かなえ<br>別 府 奏枝   |
| 18  | 鴻池小学校  | さいとう わかな<br>齋 藤 稚奈  |

私はピアノが大好きです。始めたきっかけは、私が通っていた幼稚園にピアノ部があり、そこに入部したことでした。ピアノを弾くのが楽しくて、幼稚園から帰ったらすぐ、かばんもおろさずにピアノを弾いたり、朝起きて体を起こす前に「お母さん、ピアノ弾いていい？」と聞いたりしていたほどです。

4年生になり、コンクールで思うように弾けず、くやしくて泣いて、「もうやめたい…」といったことは何回も何回もありました。でも、こうやってピアノを続けられているのは一生懸命に教えてくださったり、はげましの言葉をかけてくださるピアノの先生と、母のおかげです。

私のゆめはピアニストになることです。昨年、私の先生のピアノリサイタルに行きました。となりにすわっていた人は、先生の演そうを聴いて涙を流していました。私も感動して鳥肌が立ちました。

ピアニストは、聴いている周りの人たちを魅了させます。

そこが、とてもかっこよくてあこがれているところです。今の私では、ピアニストにまだまだとどかないけれど、これからどんどん練習して、練習して、プロのピアニストになれるようにがんばろうと思います。

世界には戦争をしていたり、うえ死にしたりする人たちがたくさんいます。私がピアニストになったら、音楽の力を使って、世界を平和にしたいです。そのためには、心が温まり、笑顔になれるような演奏ができるようにがんばります。

最後に、今の自分があるのはみんなの支えがあったからです。みなさんありがとうございます。

私は、総合の学習で、生まれてから今までの10年間のさまざまなことを、父や母にインタビューをしてまとめました。

そのインタビューを通して、今まで生きてきた10年の中で最高に、両親の愛情のぬくもりを感じました。特に、両親にとって大変だったことや、つらかったことについて聞いたときには、しょうげきを受けました。

私は、3歳の時の検診で、右目の視力がとてもおちていたため、メガネをかけはじめました。それだけなら、ただ「ふーん。」で終わることですが、教員である父や母が、自分たちの勉強時間をけずってまで、私の視力が良くなるように訓練を続けてくれたことを知り、「ふーん。」では終わらせることのできない、愛情のぬくもりを感じたのです。

また、私には、2歳下の弟がいます。とても生意気なので、「どうせ私のことなんか、気にしていないんだろうな。」と思っていました。でも、両親の話によると、私が5・6歳の時に入院したとき、おさない弟は、私のことを大変心配していたそうです。そのことを聞き、「弟も、私のことを思っていてくれたんだ!」と、うれしくなりました。

私の将来のゆめは、作家です。本を読むのが大好きで、中でも物語が好きです。私は、本を読んでいるうちに、しだいに、「自分でも楽しい物語が書けないかなあ。」と思うようになったのです。

そんな私に、両親は、「そのためには漢字を勉強しなさい。」とか、「文章でわからないところがあれば、辞書を出して調べなさい。」とか言います。私は、「キーボードで打つのに、めんどくさいことを・・・。」と思っていましたが、今回のことで、「これも愛情の一つなんだなあ。」と気づくことができました。

今、私は将来のゆめを実現するためにたくさんの本を読み、漢字の練習もしっかりと続けていこうと思っています。

わたしのゆめは、日本の文化を外国へ伝えることです。わたしには、岸和田にいるおばあちゃんがいます。おばあちゃんは琴をやっていて、小さい時から色々な琴の曲を聞いてきたので、「琴っていいなあ。」と思い、日本の楽器が好きになりました。また日本の着物や祭りも好きです。このような日本のすばらしい文化を、外国の人たちに伝えたいです。

そのためには、歴史が得意な父に、たくさんの歴史を教えてもらわなければなりません。

それから日本の文化を外国へ伝えるので、色々な英語や、ほかの国の言葉などもおぼえなければなりません。いままでのことを、残すことなく、外国の人たちに伝えたいので一生けん命にがんばります。

今の自分から、大人になった自分に、「やる気をなくしても、失敗してしまっても、またやりなおしたらいいよ。」とおうえんの声かけをしたいです。

また、仕事のことばかり考えていたらだめだとも声かけしたいです。

わたしは、この十年間、さんざんお父さんやお母さんにめいわくをかけてきました。こんどは、お父さんお母さんが、わたしにめいわくをかけてほしいとわたしは思います。

大人になったわたしに語ります。

もし大人になったわたしが、お父さん、お母さんにめいわくをかけていたら、「小さい時のわたしを思い出して。」そして、「ありがとう。」という気持ちを伝えてほしいと思います。

私は、今、家族に感謝しています。なぜかと言うと、私は家族から体や命や心などをもらったし、色々なことを教えてもらえるからです。

私は小さいころに、（親におこられるのは嫌われているからなんだ）とずっと思っていました。それに妹が生まれてからは、妹のことばかりだから（嫌われてしまったのかな…）と思ったりもしていました。

妹は、私が2年生の時に生まれました。お母さんは、8月から9月まで入院して、家にいなかったのも、おばあちゃんの家へ行っていました。妹は2か月も早く生まれたので、しばらくは、病院にいました。私はなんだか、妹にお母さんをとられたようで、さびしく思っていました。

ある時、私のこんな気持ちをお母さんに聞いてもらいました。すると、お母さんは『親がおこるのは子どもを大切に思っているから』と言ってくれました。それから、妹のことは『妹はまだ一人で何もできないでしょ』と話してくれました。そして、私が生まれたときも、みんな喜んでかわいがってくれたそうです。また、色々なところにも連れて行ってくれたそうです。そうやってお母さんの話を聞いていたら、私のことを大切に思ってくれていたんだと勘違いに気がつきました。

それからは、妹のことが好きになりました。私が遊びの相手をする時、妹は喜びます。私は妹の笑った顔が好きです。これからは一緒に遊んであげたいし、かわいがってあげたいです。

お母さん、お父さん、私を大切に育ててくれてありがとう。

3月11日、東日本大震災が起きた。

その日まで、私は福島県の浪江町に家族みんなでくらしていました。

毎日、お母さんの作る朝ご飯を食べて学校に通っていました。

運動会のリレーで走る時には、

「楓、ガンバレイケイケ！」

と、お父さんお母さんが大きな声で応援してくれて、すごくがんばる事ができました。

一緒にお菓子を作ったり、手作りの誕生日ケーキでお祝いしたり、いっぱい一緒に遊んでくれました。そんな毎日が、すごく当たり前のことだと思っていました。

しかし、震災の後、私はお父さんお母さんとは一緒にくらしなくなりました。ひなん所を転々とした後、私とお兄ちゃんとおばあちゃんの三人は、おばさんのいるこの伊丹市でくらす事になりました。

お父さんお母さんは、震災で被害にあった地域の復こうのために福島に残り、今もがんばって働いています。両親と別れ、さみしくてたまらない私に、お母さんは、毎日、朝と夜、必ず電話をかけてくれます。

「今日も一日元気でがんばろう」

という言葉に、元気をもらいます。そして、月に二度、この伊丹に会いに来てくれます。その時は浪江にいた時のようで、嬉しくてたまりません。

家族と一緒に暮らすことが当たり前だったあの頃より、お父さんお母さんが自分たちの事をどれほど大切に思ってくれているのか、わかったような気がします。私自身も、家族と一緒にいられる時間をすごく大事にしたいと思えるようになりました。

私を応援してくれる学校の先生やたくさんの友達、そばで見守ってくれるおばさんのれこちゃんに、「ありがとう」の気持ちを忘れず、元気一杯すごしていきたいと思います。

自分が二十歳になった時、どんな大人になっているのか、今はわかりませんが、お父さんやお母さんのように、地域のため、大切な家族や仲間のために一生懸命頑張る大人になりたいと思います。

難波さんと教師とのコミュニケーションによる主張

- 1 「お名前は何ですか？」  
→ 「難波千佳です。」
  
- 2 「学校はどこですか？」  
→ 「伊丹特別支援学校です。」
  
- 3 「お友達は何人にいますか？」  
→ 「8人です」
  
- 4 「学校は楽しいですか？」  
→ 「楽しいです」
  
- 5 「好きな勉強は何ですか？」  
→ 「算数と国語です。」
  
- 6 「ありがとうを言いたい人は誰ですか」  
→ 「先生、お友達、ゆかっぺ、にいにい、  
おねえちゃん、ママ、パパ」
  
- 7 「これからもがんばってお勉強しますか？」  
→ 「はい。します。」

去年の4月、私たち家族にとってうれしいことがありました。父が10年間のアメリカ単身赴任から帰ってきたのです。私が生まれたのは2001年6月。父は7月からずっと仕事でアメリカに住み、おじいちゃんと母と私の3人でくらししてきました。

父とは、はなればなれでさびしかったけれど、楽しいこともいっぱいありました。夏休みに何度かアメリカに行ったことです。初めての飛行機、初めての外国。父はいろんな所に連れて行ってくれました。アメリカは想像より広くて大きくて、自分がそこにいるのが何だか不思議でした。そして、ワクワク楽しい気持ちになりました。アメリカ人って目が合うと笑顔であいさつしてくれるので、私も英語で話ができたらいいなあと思いました。

この10年間で一番大変だったのは、私が病気になったことです。夜中に突然おなかがいたくなり、急入院したのです。原因がわからずいろいろな検査をして、結局、手術を受けたのですが、しばらくは命があぶなかったと母に聞きました。今思い出すと、病院の先生は夜中に私の具合が悪くなると、すぐに病室までかけつけてくれる、そんなことが毎日続きました。

入院している時、私が楽しみにしていたのは、先生からの手紙でした。5才の私は毎日その先生に、「ありがとう。」くらいの手紙を書いていました。先生は、やさしく、「りなちゃん、これからもがんばっていきましょうね。きっとよくなるよ。」と毎日お返事をくれました。いろんな言葉をもらい、つらいちりょうを乗り越えて、今、私は桜台小学校で楽しくすごしています。

これからも、今までささえてくれた人たちや家族に感謝の気持ちをわすれず、笑顔で毎日をすごしていきたいです。そして、いろんなことにチャレンジしたいと思います。

わたしは、平成13年7月16日に生まれました。生まれたときには、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなが喜んでくれたそうです。私の名前は、となりのトトロのメイちゃんのように、すなおで元気で明るく育ってほしいという願いをこめてつけてもらいました。そんな名前を大事にしたいと思いました。

小さいころの一番の思い出は、妹が生まれた時のことです。お母さんのおなかに赤ちゃんができたよと聞くまでは、妹や弟はいらないと思っていたけど、それを聞いてからは、お姉ちゃんになるんだなあと思い、妹や弟がほしくなりました。妹が生まれる前の日、家族3人で広い公園に行きました。サッカーやバトミントンをしました。その日の夜、お母さんは病院に行って、次の日の朝には妹が生まれました。私が起きたときにはもう生まれていたのでびっくりしました。でも、ぶじに生まれてきてとてもうれしかったです。生まれてからは、大変だし、けんかもしたりしていますが、今の方が妹がいて、にぎやかで楽しいです。

10才になった今、夜きんで毎日大変なお父さん、仕事や家事が大変なお母さんに、私はありがとうと言いたいです。お父さんとお母さんは、家族のためにがんばってくれているので、私も、妹の世話をしたり、お母さんに料理を教えてもらって、お昼ごはんをみんなに作ってあげたり、自分でできることをしていきたいです。大好きなダンスも、もっともっと上手になれるようにがんばりたいです。

私は、すぐにイライラして、みんなにやさしくできていないことがあります。これからは、もっといろんな人にやさしくできる人になりたいです。「愛依」という名前に負けない、素直で元気で明るい人になれるように、これからもがんばります。

ぼくは、小さいころはとても多くの問題をおこしていました。でも、そんなぼくに、おじいちゃんは、かぶとむしを送ってくれたりしました。ぼくはそれからいつのまにか生物がすきになりました。2歳の時に階段から落ちたことがあるのでその時かもしれないし、もしかしたら生まれた時から生物が好きだったのかもしれない。ぼくが生物を育てたいと言ったときには、おばあちゃんがペットショップの人に育て方を一緒に聞きにいらしてくれました。

ぼくには夢が二つあります。1つ目は、カメラが好きなので生物カメラマンになることです。夢がそのとおりにすすむかわかりませんが、カメラの勉強を少しずつして行って生物カメラマンになりたいと思います。

もう一つの夢は、漁しになりたいということです。今は生物カメラマンか漁しか、迷っていますが、ゆっくり考えればけつだんがつくと思います。夢がかなうようにがんばります。

家では生物をいっぱいかってもゆるしてくれるおよめさんをさがして、幸せなけっこん生活をしたいです。たのしく笑い、たくさんけんかをして、すぐに仲直りをするふうふになりたいです。困らずに、さいがいなどにも負けない強いきずながあるふうふになりたいです。

そして、生たいけいを大切に自然を守るゆうしゃみたいになりたいです。

もし一人で守ることができなければもっともっと仲間をふやして、自然や生物をぜつめつから守り、自然のバランスをくずさないように自然を守れるような大人になりたいです。

私は、平成十三年五月十六日生まれの十さいです。たん生日がきた時、二けたになったなーと思うだけで、特に特別な事は感じませんでした。

運動会が終わってから、音楽会の練習が始まりました。「二十の半分」と言う歌を練習していく内に、十さいということに特別な感じがしてきました。

『成人』を国語辞典で調べると、「一人前の大人になること」と書いてありました。次に『大人』を調べると、「考え方やほんだんがしっかりしていること」とありました。

私のまわりには、大人と言われる人がたくさんいます。お父さん・お母さん・おじいちゃん・おばあちゃん・スポーツ選手・学校の先生・会社につとめている人・給食センターで働いている人などいろいろな大人がいます。その人達は、みんな、力を合わせて人の役に立っている人達です。しかし、その人達とは、反対の人もいます。

私は、正しい事は正しい。まちがっている事はまちがっていると、自分の意見がはっきり言えて、みんなに勇気をあたえられる大人になりたいです。

大人の半分の私達が今できる事は、大人に向けての勉強や運動、みんなで力を合わせて一生けん命に取り組む事だと思います。自分一人で取り組むより、みんなで行く方が、むずかしいと思う時もあります。けれど、みんなで考えたり意見を出し合ったりする方がいろんな発見があり、できた時の喜びが大きいです。

今の私の夢は、五才から始めた器械体操のオリンピック選手になる事です。思うようにいかない事や苦しい事もあるけど、一つ一つ乗り越えて夢を実現させます。

私は先月10才になり、大人になるまであと半分のところまで来ました。

私の将来の夢は、世界中の様々な場所を旅することです。このような夢を持ったきっかけは、今までに家族と海外旅行に行ったことです。

その時泊まったホテルには、いろいろな国の人たちがいました。私には兄弟がいないため、ホテルのプールで他の国の子どもたちと遊んだり、会話したりしたいと思いました。しかし、私は、日本語しか話せないなので、思ったようにはできませんでした。だから、今からいろいろな国の言葉を覚えて、大人になったら世界を旅してたくさんの人と友だちになったり、話したりしたいと思います。

私がこのような夢を持てたのは、いろいろな所に連れて行ってくれたり、いろいろなことを教えてくれる両親のおかげだと思います。

そんな私ですが生まれてきた時は、体重が2500gと少し小さかったそうです。でも今まで大きな病気にもかからずに、元気に成長できたのは、両親がじょうぶに育ててくれたからだと思います。

それから私の祖父母は、会った時や、電話をした時、いつも私のことを気にかけてくれます。洋服やゲームなども買ってくれます。また、遊びに行った時は、遊園地やゲームセンターに連れていってくれたりして、私を楽しませてくれます。理科や社会の調べ学習でわからないことがあれば、ていねいに教えてくれます。

両親と祖父母は、いつも私のことを大切に思ってくれているので、私はとても幸せです。お世話になっている両親と祖父母にありがとうと伝えたいです。

そして、夢をかなえることができるようにいろいろな国の言葉を覚えたいです。

私は、十年間でいろいろな人に支えてもらいました。その人たちはみんなやさしい人で、私に友達を思う気持ちをくれた人や将来にえいきょうを与えてくれた人たちです。

私にやさしい気持ちをくれたのは三年生のころの先生です。その先生は、最初は少しきびしかったけど、よく昔話をしてくれる先生でした。そのお話はとても良い話ばかりでした。何十こものお話を聞いているうちに、私とクラスみんなの心がやさしく、人を思える気持ちというものまでももたせてくれました。私は、今でもその先生のことをわすれられず、すごく感謝しています。

でも、最近ではニュースなどで悪いことをする人がいるという事をよく聞きます。私は「こんな人、大っきらい。」と思うのではなく、先生がくれた気持ちというものを分けてあげたいなと思います。そうすればこのように、人を思い支え合うことの出来る気持ちがあふれだしていくと思います。

私は、将来に向けてよりよく生きていくには、どんな人でも支え合うことが大切だと思うので、目が見えない人や耳が聞こえない人などのためにある学校の先生になりたいです。

また、お年よりを助ける老人ホームのかいご士やかんど士さんなど、人を助ける仕事をしたいです。未来を大切に、みんなが笑える世界にしていきたいです。

将来の夢は、これから変わっていくかもしれないけど、きっと自分は人を助ける仕事についていると思います。これからは、そのなりたい仕事につけるように、今できる事をやっいていこうと思います。未来はわからないけど、きっとみんなが幸せな世界だと思います。

ぼくは、お母さんのおなかの調子が変わったから、予定より早く生まれました。

最初に左目をあけて、お母さんを見たそうです。また、初めてハイハイしたときには、

「おかあさん。」

と、よんだそうです。

自分が生まれたときのことを知って、一生けんめい左目をあけたことがえらいと思いました。

今、楽しいことはDSです。友だちと一緒に遊んでいます。

そして、今、がんばりたいことは、漢字です。毎日の宿題で、漢字をきれいに書くよう気をつけています。もっと漢字をきれいに書けるようにがんばります。

ぼくのしょう来のゆめは、ピザ屋さんになることです。

ピザ屋さんの中で、ピザを作る人になりたいです。ピザを作る人になるために、ピザの勉強をしたり、ピザになにをのせたらおいしいかをおぼえたいです。やさしいおとなで、おいしいピザを作る人になりたいです。

この作文を書く前に、お母さんから手紙をもらいました。手紙には、

「生まれてきてくれて、ありがとう。」

と書いてありました。うれしかったです。

お母さん、お手紙ありがとう。本当にうれしかったです。

ぼくは、家族のみんなと近所のおじちゃんや、おばちゃんたちに助けてもらっています。

おじいちゃんや、おばあちゃんや、お母さんたちが、相談にのってくれて、落ち込んでいる時には、はげましてくれます。それに、がんばろうとしている時は、いっぱい応援してくれたり、他にも、色々な事で助けてくれているので、家族には本当にありがとうございますと心の中で感しゃしています。これからもよろしくおねがいします。そして、これからは、ぼくもできる事ががんばって、家族に恩返しをしたいです。

今、ぼくができる恩返しは、勉強をがんばる事や、お手伝いをする事、心配をかけないことだと思います。

まず、勉強をがんばる事は、ぼくの将来の夢である「病院の先生」になるためにも必要です。ぼくが病院の先生になりたいと思った理由は、小さいころにとっても痛くて、悲しくて、つらい気持ちになった時に、病院の先生に助けてもらって、とても心に残っているからです。

将来の夢を実現するために、今は、勉強と、人にやさしくする事ががんばっています。そして、やさしくて、いろんな人の命を救えるような病院の先生になりたいです。それで、ちゃんと病院の先生になれたら、おじいちゃんや、おばあちゃんが長生きできるようにしてあげたり、お母さんが病気になっても治してあげたりしたいと思います。そして、家族に恩返しをしたいです。

ぼくの名前は、「大陽」と言います。ぼくが生まれてお父さんとお母さんから最初にもらったプレゼントが、この名前でした。お兄ちゃんの名前にも「大」という字があります。心の大きな人になってもらいたいという、両親の願いがこめられているそうです。ぼくは、自分の名前がとても気に入っています。元気すぎてこまらせてしまったこともあるようですが、お日様のような明るい活発なありのままのぼくを大切に育ててくれました。この10年間、家族といっしょにすごしてきた思い出は、かけがえのないぼくの宝物です。

ぼくは、体を動かして遊ぶのが大好きです。ようち園のころから続けているサッカーは、ぼくの生活に力をあたえてくれるスポーツです。この夏、なでしこジャパンがゆう勝し、世界一になりました。キャプテンのさお選手は、「夢はみるものでなく、かなえるためにある」という、すばらしい目標を持ちながら努力を続けられました。東日本大しん災で大変なことになっている日本中に感動と勇気をあたえてくれたこの出来事が、ぼくはわすれられません。このことがきっかけでぼくは、しょう来サッカー選手かスポーツに関わる仕事がしたいと思うようになりました。体を動かす楽しさやすばらしさを伝えたり、スポーツを通して自分の心と体が一つになれる喜びを色々な人に知ってもらえたりしたら、どんなにうれしいだろうと考えるようになったからです。

お父さん・お母さん、これからもおうえんよろしくお願いします。

わたしは1年生から野球をしていて、しょう来、女子のプロ野球選手になりたいと思っています。なぜかという、プロ野球を見ていて、チームワークの良さに感動して、自分もやってみたくと思ったからです。

げんざい、わたしが所ぞくしている荻野小学校のチームには、女の子はわたしだけで、あとは全員男の子です。女の子1人でも、はずかしくありません。それは、大好きな野球をみんなで思いっきりできるからです。

野球は、大きな声を出すことが大事です。どこへ投げればいいか、周りから指示を出したり、失敗した友だちを励まし合ったりしながらチーム全員で戦うからです。入った時は、少しははずかしかったけど、気持ちを前に出し、チームのために…と考えると、自然に声が出るようになりました。

わたしのお父さんは、チームのコーチをしています。だから、試合でバッティングや守びがだめだったら、家に帰ってからよくおこられます。しかし、この前の試合で、わたしがヒットを打った時にお父さんがガッツポーズをして喜んでくれました。それを見て、もっといいところを見せたいと思いました。だから、毎日すぶりをがんばっています。

毎日毎日あきらめずに努力すれば、きっと成果がでると、わたしは信じています。失敗をして注意されて、くやしい思いもいっぱいするけど、わたしはぜったいにあきらめません。

サッカーのなでしこジャパンで活やくしている澤選手が言っていたように「なんでもあきらめない」ということが大事だと心から思います。これからは、女子のプロ野球選手というゆめに向かって、1歩1歩努力していけばゆめがかなうのではないかと思っています。

2001年9月28日午前5時ごろに、私は元気に産まれて来ました。3才の時、親指が上に上がらなくなってしまった事がありました。その時、お父さん、お母さんは、手術を選びました。今、こうして親指を自由に動かせるのは、あの時にお父さん達が手術を選んでくれたからです。

2004年12月15日に初めて弟ができました。たった一人の弟ですから大切にし、かわいがりました。

6才になり、小学校に入学して、いやな思いをした事もありました。名字が別府なので、コップ、ゲップ、キャップなどとはやしたてられました。でも、何度かいやな事がありましたが、私は決してくじけませんでした。

そして今、4年生になり、楽しくすごしています。また、幼いころにあこがれた薬剤師になるために勉強や習い事をがんばっています。

楽しい事をして遊んでいても後で宿題や習い事が待っているという日々にストレスがたまり、もう全てを放り出して楽をしたいと思った時がありました。しかし、こんなにかんたんに夢を捨ててしまう事だけはできませんでした。

私は、まず一つかしこくなりました。楽をして夢を実現させる事など、とんでもない事だと気づきました。そう考えると、なぜだかそんなふうに考えていた自分がなさけなくなってしまうのです。自分は何をするべきなのか、この1分1秒が夢に向かうためのチャンスなのだと気づきました。そのチャンスをむだにしている自分がゆるせなくなり、受験をしてうかってやる！そういう気持ちが芽生えました。

今日も勉強に追い回されていますが、ちっともいやだとは思いません。勉強ができるのは、今ここに私がいるから、私をここまで育てて来てくれた家族のおかげです。大きくなって恩をいつか返したいなと思います。

わたしは今まで、いろんな人にささえられてきました。その中でも一番感しゃしたいのは、お母さんです。

わたしのお母さんはいつもわたしが悲しい時味方をしてくれます。友達からいやなことをされた時「わか悪くないよ。」とか「ほっといたらいいやん。」などとなぐさめてくれました。わたしはとてもうれしかったし元気をもらいました。それから、わたしは少しずつだけど、自分の気持ちを友達に言えるようになってきました。わたしはいつも見守ってくれるお母さんが大好きです。

こんなわたしの夢は、保育士になることです。理由は子どもが好きだからです。わたしには小さい妹がいます。妹がもっと小さい時お母さんがお世話をしているすがたはとっても幸せそうでした。でも、しんどそうな時もありました。妹をねかせる時、全然ねてくれなくて大変そうでした。また、妹が夜に走り回り、「うるさい。」とおこっていることもありました。だから、小さいこどものお世話をする保育士はとても大変だと思います。でも、小さな子ども達を見ているといやされると思うから、わたしは保育士になりたいです。

わたしが保育士になるためにがんばらないといけないことは「相手が何を言いたいのかをできるだけ分かるようになること」です。そこで、今心がけていることは「自分の意見を言うこと」と「相手の話をちゃんと聞くこと」です。

しょう来保育士になったら、やさしくて、でも、おこる時はおこって、保育園のちいさな子ども達に大好きって思ってもらえる保育士を目指します。その夢をかなえるためにがんばります。